

令和3年度全国学力・学習状況調査 市川市の結果分析について

市川市教育委員会
学校教育指導課
令和3年11月22日

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への**教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。**

さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の内容

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語、算数・数学〕
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

3 調査を実施した学校・児童生徒数（調査日：令和3年5月27日）

	対象学校数	学校数（実施率）	児童生徒数
小学校	39校※ ¹	39校（100%）	3,470人
中学校	16校※ ²	16校（100%）	2,988人

※塩浜学園（前期課程・後期課程）を含む

4 教科に関する調査〔国語、算数・数学〕の結果について

小学校6年生 平均正答率（%）

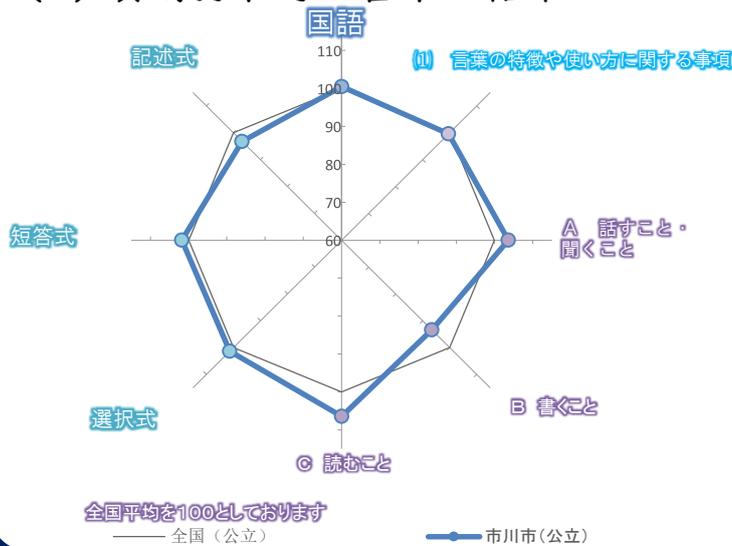
中学校3年生 平均正答率（%）

小学校	市川市	千葉県	全国	中学校	市川市	千葉県	全国
国語	65	65	64.7	国語	65	65	64.6
算数	73	70	70.2	数学	57	56	57.2

※平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、全国は小数第1位まで、千葉県及び市川市は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。

5 小学校【国語】に関する調査結果

(1) 領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均と同等の結果となりました。
- ・「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、全国平均と同等又は上回りました。
- ・「書くこと」や記述式の問題は、全国平均を若干下回り課題があります。

(2) 全国平均と比べ、同等又は良い状況と考えられること。

- 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握すること。
- 資料を用いた目的を理解すること
- 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えること。

(3) 課題があると考えられること。

目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

【課題改善のポイント】

自分の考えや伝えたい内容を相手に分かりやすく伝えるためには、相手や目的を明確にして書く学習が必要です。そのため、まずは説明文の構成を読み取る学習を設定します。伝え方は目的に応じて変わるため、事実と感想、事例や意見とを区別したり、詳しい説明を付け加えたりするなどの構成を工夫することが重要です。

また、書いた文章を読み合うことで、伝わり方を確認し、児童自身が文章を振り返ることも重要です。

文の中における主語と述語との関係を捉えること。

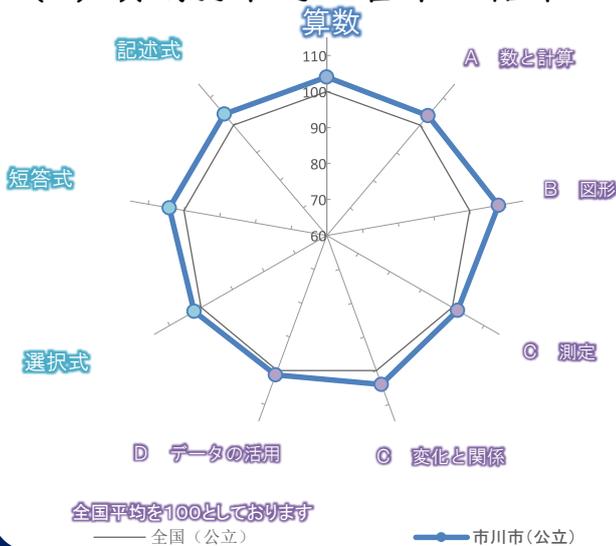
【課題改善のポイント】

文章の内容を理解する場面だけでなく、表現する場面でも主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係を正しく捉えることは重要です。

文章を読む際、一文一文に分けて分析してみたり、短文を音読したりすることを通し、文の中での使われ方の理解を深めます。また、物語文を読み、内容を短く要約した文章を書き表したり、新聞の見出しや写真のキャプションを書いたりすることで、主語と述語を自ら意識して文章を書くことも効果的です。

6 小学校【算数】に関する調査結果

(1) 領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均と同等の結果となりました。
- ・すべての領域「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」で、全国平均を上回りました。
- ・特に、「図形」に関する問題では、全国平均を上回りました。

(2) 全国平均と比べ、同等又は良い状況と考えられること。

- 条件に合う時刻を求めたり、速さと道のりを基に時間を求める式に表したりすること。
- 棒グラフから、数量を読み取ること。

(3) 課題があると考えられること。

図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述すること。

【課題改善のポイント】

面積の学習では、面積を求めるために必要な辺の長さや高さを求め、図形の面積の公式を用いることができるようにすることが重要です。そのため、図形を構成する要素に着目するとともに、面積を求めようとする図形の辺の長さや位置関係を捉え、面積の求め方について筋道立てて説明できるようにすることが大切となります。また、等積変形をしたり倍積変形をしたりして面積の求め方を考える際、変形する前後の図形の辺や高さの関係に着目して説明することも有効です。

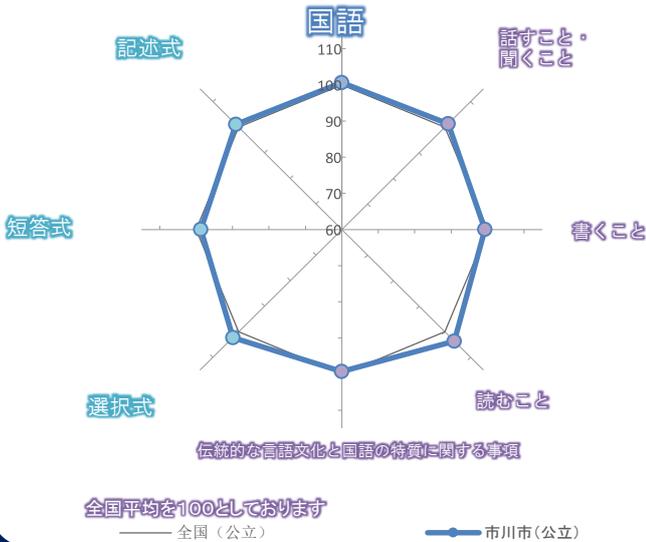
帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述すること。

【課題改善のポイント】

データの活用領域では、目的に応じてデータを集めて分類整理して適切なグラフに表したり代表値などを求めたりするとともに、データのもつ特徴や傾向を把握し、問題に対して自分なりの結論を出していくことが重要です。そのため、単なる数値の読み取りではなく、問題意識や身の回りの事象から解決可能な問題を設定し、解決に必要なデータを収集し、表やグラフなどに整理した上で特徴や傾向を把握し、見出した特徴や傾向から問題に対する自分の考えをまとめて表現していくことが大切となります。

6 中学校【国語】に関する調査結果

(1) 領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均と同等の結果となりました。
- ・「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域では全国平均と同等又は上回りました。
- ・「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国平均を若干下回り、課題があります。

(2) 全国平均と比べ、同等又は良い状況と考えられること。

- 話合いの話題や方向を捉えたり、質問の意図を捉えたりすること。
- 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解すること。
- 事象や行為などを表す多様な語句について理解すること。

(3) 課題があると考えられること。

書くことにおける推敲の場面において、語句や文の使い方、段落相互の関係について考えること。

【課題改善のポイント】

「書くこと」の推敲場面において、自分の書いた文章をより読みやすく分かりやすい文章にするためには、読み手の立場に立って文章を整えることが大切です。自分の伝えたいことに対して、ふさわしい語句や文の使い方になっているか、段落相互の関係は適切であるのか等の、観点を明確にして推敲することが重要です。また、書いた文章を互いに読み合う際にも、観点を明確にして、読み手からの助言を行うことで、自分の文章が他者にどう読まれるのか自覚し、次の書く活動へ生かすことができます。

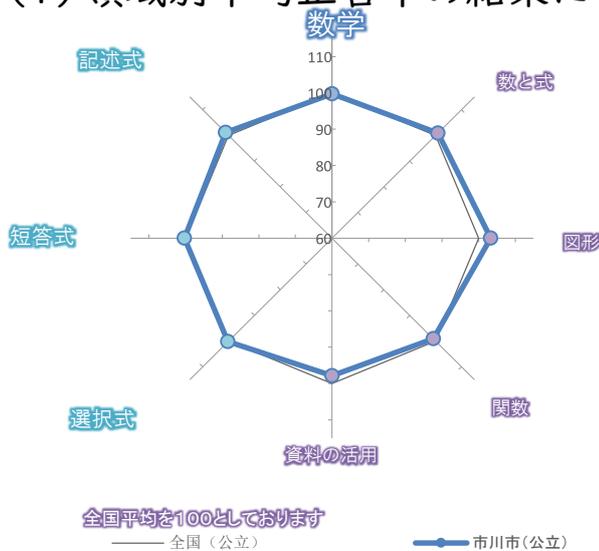
文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考え方をもつこと。

【課題改善のポイント】

文学的文章を読み、自分の考えをもつためには、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」場面において、具体的な叙述を根拠に理解することが重要です。この学習過程で形成した考えを、他者と交流することで、自分の考えを改めて振り返り、確かなものにし、作品の受け止め方を豊かなものにするのが大切です。「知識及び技能」の「読書」の指導事項とも関連させ、読書によって新しいものの見方・考え方を知ったり、自分の考えが広がったりすることを実感することも有効です。

7 中学校【数学】に関する調査結果

(1) 領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均と同等の結果となりました。
- ・「数と式」、「図形」の領域では、全国平均と同等又は上回りました。
- ・「関数」「資料の活用」は全国平均を若干下回り、課題があります。

(2) 全国平均と比べ、同等又は良い状況と考えられること。

- 具体的な場面で、一元一次方程式をつくること。
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えること。
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること。

(3) 課題があると考えられること

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

【課題改善のポイント】

様々な問題を数学を活用して解決できるようにする際に、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」とその「用い方」について考え、説明できるようにすることが大切です。いずれか一方の説明にとどまらず、「用いるもの」とその「用い方」の両方を指摘し、的確に説明できるようにするために、学習の中の説明の場面で、友達の説明と比較したり、よい説明を参考にしたりすることで、より洗練された表現に高めていくことが大切です。

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

【課題改善のポイント】

問題を解決するために必要なデータについて、身の回りのことを題材にしたり、実際に実験して収集したりしてイメージをもち、その値を用いて考察することが大切です。説明については、まずは「数学的な表現とはどのようなものか」を知ることが大切です。それを前提に、ICT機器を効果的に活用し、個々の説明を共有する場面をより多く取り入れることで、よい説明とはどのようなものかを知ることができ、自分自身の説明を振り返ることができます。

8 児童生徒質問紙調査の主な結果について

(1) 小学校の結果

将来の夢や目標を持っていますか
(81%)

人の役に立つ人間になりたいと思いますか
(96%)

肯定的な回答が多かった質問 全国平均と同等またはそれ以上

友達と協力するのは楽しいと思いますか
(94%)

国語・算数の勉強は大切だと思いますか
(94%)

難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか
(68%)

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか
(71%)

全国平均と比べ、肯定的な回答が3ポイント以上低い質問

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
(74%)

話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか
(75%)

(2) 中学校の結果

学校に行くのは楽しいと思いますか
(81%)

人の役に立つ人間になりたいと思いますか
(94%)

肯定的な回答が多かった質問 全国平均と同等またはそれ以上

コンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか
(93%)

友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていますか
(95%)

難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか
(60%)

自分には、よいところがあると思いますか
(72%)

全国平均と比べ、肯定的な回答が3ポイント以上低い質問

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
(76%)

自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか
(80%)

9 「児童生徒質問紙調査」と「教科に関する調査」との相関について

次のような児童生徒ほど、教科の正答率が高い傾向がありました。

朝食を毎日食べている。

1日あたりのテレビゲーム(スマホ等含む)をする時間が1時間より少ない。

朝食や家庭学習について

家で自分で計画を立てて勉強している。

学校の授業時間以外に、1日あたり1時間以上勉強している。

自分にはよいところがあると思う。

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。

モラルや自尊心・ICT使用について

人の役に立つ人間になりたいと思う。

学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。

国語・算数・数学の勉強が好き。

国語・算数・数学の勉強は大切だと思う。

国語・算数・数学に対する興味・関心について

国語・算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。

わけや考えを書く問題に対し、最後まで解答を書こうと努力する。

自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行った。

自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した。

授業について

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

学級での話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができた。

生活習慣・学習習慣の向上

規範意識・自己有用感の向上

授業改善

学力向上

学力向上のポイント

10 学力向上に向けた取組について

(1) 生活習慣・学習習慣の向上について

<学校では>

- ・家庭学習の進め方についてICTの活用を含め、各学校で支援の充実を進めています。

<市川市教育委員会では>

- ・いちかわGIGAスクール構想を作成し、「一人一台端末」と「高速大容量の通信ネットワーク」の環境を整えるとともに、ドリル学習ソフトを導入し、一人一人の教育的ニーズや理解度に応じた個別学習を可能にすることで、家庭学習の充実を図っています。

(2) 規範意識・自己有用感の向上について

<学校では>

- ・話し合い活動の充実を図ることで、友達の考えを受け止めたり、自分の考えをもったり、友達や自分の良さを実感する機会を設けています。
- ・人との関わりを通して、様々な体験の充実を図ることで、互いに認め合ったり、協力したりする喜びを育みます。

<市川市教育委員会では>

- ・人と関わり、ふれあう活動をはじめ、命を大切にする教育の推進や道徳教育、読書教育の推進を図っています。
- ・教員や支援員の加配により、個別の支援の充実を進めています。

(3) 授業改善について

<学校では>

- ・自校の全国学力・学習状況調査の結果を学力校内向上組織で分析し、その結果を授業改善に生かしています。
- ・自校での公開研究会の開催や他校の公開研究会への参加等により授業力の向上に努めています。

<市川市教育委員会では>

- ・全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学習課題の改善・学習活動の充実について、各学校に周知を図っています。
- ・いちかわ学校三カ年計画(創意と活力のある学校づくり)により、各学校の校内研究・研修の予算を補助し、校内研修の充実や教員の授業力アップにつなげています。
- ・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、開かれた教育課程の実現や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善ができるよう、各学校を訪問し、支援、助言を行っています。